

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

看護手順については、ナーシングスキルの実施をする際に看護手順を用いて両方を確認するように掲示した。看護手順については、前期 40%であったが後期は 60%へ活用率が上昇した。ナーシングスキルについては利用件数が 1000 件であり、前年度 360 件より激増している。9 月に認知症の勉強会、2 月に事例検討会を実施し、その後アンケート調査を行い今後の患者ケアに活かすことができるように情報を共有することができた。看護診断に関しては、スタッフ全員に NANDA-I の勉強会を行い、また 2 事例の課題に取り組むことができた。アンケートにて NANDA-I について理解できたかは「できた」「まあまあできた」が 71.4%であった。記録の監査(量・質)を毎月実施し、服薬管理についての記載漏れや個別性のある計画立案ができていない事が多かった。看護を語るに関しては 3 回行い、計 10 人が実施した。経験年数関係なく、他者が実施した看護や考え方を聞くことにより、自己の看護を振り返る時間を持つことができたが目標の 4 回は実施できなかった。

2) 病院経営に参画する

地域包括ケア病棟入院基本料の要件については、在宅復帰率は 82.3%で、自宅等からの緊急患者の受け入れに関しては、直近 3ヶ月 9 人以上はクリアできている。また退院時共同指導料 2 に関しては、毎月 2 件以上は算定でき要件はクリアできている。平均患者数は、18.5 人、病床利用率は 61.7%である。重症度、医療・看護必要度に関しては、3 ヶ月平均 12%以上が算定要件であり、常時平均が 17%以上キープできている。認知症ケア加算のチェック表を使用し、看護計画内に認知症に対する介入計画の有無や、評価時に認知症についての介入が記載されているか確認ができ、算定漏れは防ぐことができています。毎月超過勤務時間を掲示し、スタッフに周知を図った。超過勤務時間は月平均 14.5 時間であり、目標達成できなかった。超過勤務削減のため、残務記入表を使用して残務内容を把握し補完体制に取り組んだが、リーダーの声かけが十分でない場合や記載する事の意義が定着しなかった。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

転倒転落事例は、39 件で昨年度と同数であり減少できなかった。発生した事例は、インシデントファイルで共有し今後同事例が発生しないように周知できた。また、危険予知能力向上の為、7 月(転倒及び薬剤関連)、8 月(転倒予防の為にベッド周囲環境)に実際の場面を用いた KYT を実施した。1 月には転倒による左大腿骨頸部骨折の 3b 事例が発生した。歩行など自立しており、特に動作制限もなく退院調整中の事例であったため、日頃の環境調整などの重要性を確認しあった。薬剤事例は 61 件であり、前年度より 26 件減少している。薬剤未投与が多く、準備不足だけでなく、飲み込みまでの確認不足での未投与などであった。毎月的手指消毒剤使用回数チェックに関しては、1 患者 1 看護師の使用回数は、月平均 9.1 回で、目標 9.6 回を下回ったが昨年度の 8.1 回よりは増加した。毎月 PPE のチェックリストを用いて PPE 着脱の実際を見て、各個人に指導を実施した。実際に COVID-19 患者の受け入れ時も感染対策を実施でき感染拡大はなかった。新規褥瘡発生は 10 件(目標未達成)、新規表皮剥離は 49 件(目標達成)であった。エアマットの使用率の提示や、車いすの座布団を新規購入し車いすでの活動が多い患者に積極的に使用したことで長期車いす座位による皮膚損傷の発生を防ぐことができた。

4) 専門職としての能力開発に努める

院外研修では緩和ケア研修会や学生指導関連、認知症対応力向上研修などに多数参加でき、その後の伝達講習にも取り組めた。看護研究は、「A 病棟看護師の褥瘡発生予防に関する意識調査－勉強会及びポスターの掲示前後の比較－」の演題で、第 19 回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会で発表することができた。

5) 質の高い看護職を確保する

看護協会実施の研修名「指導力・対応力の向上を目指す」に参加後、伝達講習を実施し知識の共有を行った。学生の実習環境を整えるために、病棟の受け入れ体制を検討し、学生を名前で呼ぶ、座って報告を聞くなど基本的なことに取り組み、学生の病棟評価は概ね前年度と同等で低下は見られなかった。

6) 活気ある職場、元気の出る職場づくりを推進する

年次休暇は平均 8.1 日取得できている。リーダー会では、毎月スタッフの意見を調査し、誰もが発言できる体制を取り入れ、内容を検討できた。

2. 病床運営状況

表 1 令和 5 年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)	病床 利用率(%)	病床 稼働率 (%)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)				
30	内科・外科	18.1	18.2	18.5	32.0	61.7	63.7

有料個室		死亡者数(人)	地域包括ケア病床 在宅復帰率(%)
病床数(床)	稼働率(%)		
8	73.1	21	82.3

3. 看護体制

表 2 令和 5 年度 看護体制(令和 5 年 4 月 1 日現在)

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
19	固定チームナーシング	2:2

4. 看護統計

1) 重症度、医療・看護必要度

表 3 令和 5 年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度 II

基準を満たす 患者の割合(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
		21.6	23.6	20.3	17.7	14.5	23.7	19.9	22.5	21.3	21.2	24.7	8.8

2) 部署データ

表 4 令和 5 年度 認知症ケア加算算定対象者数

認知症ケア加算1日 平均患者数(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		4.2	4.1	7.0	5.6	6.0	3.3	3.7	4.4	4.2	8.4	7.9